

政治人類学

◎◎◎一期生たちの夏

060 第40号
8/1/87

京都・嵯峨野で開かれた
婦人団体のセミナー。駆け
付けた社民党衆院議員の辻
元清美さん(三三)に、受付係
が「会費をお願いします」。
本人は「わたし、講師なん
ですけど…。だれも私のこ
と国会議員に見てくれへん
ねん」。

十四年前、当時の中曽根
康弘首相のシーレン防衛
政策に反発して、民間国際
交流団体「ピースポート」
を設立。政治とは一線を画
していたが、総選挙公示の
一週間前に土井たか子党首
から「市川房枝さんの後を
引き継いで」と口説かれ、
比例代表近畿ブロックから
出馬を決意した。

当選直後にいきなり党政
審副会長の大役を任せられ、
与党政調調整会議のメンバ
に情報公開法などやれるこ

とほやっておきたい」

「社民党は米軍用地特別
措置法改正に反対し、支持
率を上げたと言われるが、

「政府が提出した法案に
反対するのは分かりやすい
し、一番簡単。でも反対す
ると、具体的な要求が盛り

与党の利点

社民・辻元清美さん

3割でも要求盛れる

込まれないシレンマがあ
る。特措法の場合は、折衝
で条件を勝ち取るものでは
なかったから。市民活動促
進法案(NPO)でも環境
アセスメント法案でも、問
題ごとにピースポートのネ
ットワークで、NGO(非
政府組織)の仲間と相談し
ながらやっている」

NPO法案の取りまとめ
では、自民党との交渉が難
航し「不覚の涙」も。しか
し衆院採決では「永遠のラ
イバル」と公言する中曽根
元首相も賛成し、留飲を下
した。基本政策で政府、自
民党と対立しながら、与党
に批判も強いが、

「自民党単独政権がええ
んやろか? 私はいまの連
立の方が、はるかにオー
ンでいい。外交安保、エネ
ルギー問題など、きしみが
す」

「政府が提出した法案に
反対するのは分かりやすい
し、一番簡単。でも反対す
ると、具体的な要求が盛り
込まれないシレンマがあ
る。特措法の場合は、折衝
で条件を勝ち取るものでは
なかったから。市民活動促
進法案(NPO)でも環境
アセスメント法案でも、問
題ごとにピースポートのネ
ットワークで、NGO(非
政府組織)の仲間と相談し
ながらやっている」



婦人団体のセミナーで講演する社民党の辻元清美衆院議員—7月12日、京都・嵯峨野

社民党「きずな派」

「市民との絆(きずな)」
を強調して社民党党首に就
任した土井たか子氏の下で
初当選した辻元清美、保坂
展人、中川智子の三氏が秋
葉忠利氏らを含む近議員
のこと。教育、国際交流、
消費者問題、環境などの分
野で市民運動との連携を重
視する。ただ閣外協力の姿
勢をとり続ける土井党首の
指導力に疑問を呈する声も
あり、政権へのスタンスは
微妙に異なる。

味。合意形成のプロセスは
大事にせなあかんと思う
し、政権に複雑系を導入し
ないと」
「日米防衛協力のため
の指針」(ガイドライン)
見直し問題への対応は、
「すぐに与党を降りるこ
とはないと思う。いちやも
んつけまくって、降りると
きは得する時に降りなくち
や。でも、ガイドラインを
立法化する時には考えなき
やあかんかなあ。潮時かも
しれんなどという気はしてま
す」

(終わり)